



TOKYO

METROPOLITAN GOVERNMENT

理系のシゴト

東京都職員採用サイト



東京都イベント特設サイト



LINE公式アカウント
東京都職員採用情報



東京都庁の試験情報や
イベント情報などを発信しています。

東京都人事委員会事務局試験部試験課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話:03-5320-6952~4
E-mail:S9000049@section.metro.tokyo.jp

 東京都人事委員会
TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT PERSONNEL COMMISSION

 TokyoTokyo

 VEGETABLE OIL INK 6(6)

 TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT 東京都



FIELD

技術職の活躍フィールド

その幅広さとスケールは東京都ならではの。
東京都の技術職が活躍する様々なフィールドをご紹介します。

まちづくり



東京のまちを創り、守る

技術職の多くが、まちづくりに携わります。それは、都市計画の策定から、再開発や土地区画整理など市街地整備、道路や公園、港湾、上下水道などインフラの整備や管理まで様々です。「未来の東京」戦略、「TOKYO強靱化プロジェクト」など東京都の行政計画に基づき、各局がインフラ整備や災害に強いまちづくりを進めています。

道路



都市基盤を支える、道路整備の最前線

道路は、都民生活を支える基盤として欠かせないインフラ。東京都では、首都圏三環状道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備や、道路と鉄道の立体交差化を進めるほか、無電柱化やバリアフリー化といった道路の質向上にも注力しています。

ICT



デジタルの力で「スマート東京」を実現

デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」の実現に向け、都民・事業者が利便性を実感できるデジタルサービスを展開しています。

水道



首都を潤す、水道インフラを整備

水道局では、水源林やダムといった水源施設から浄水場、水道管に至るまでの水道システムを一元管理。24時間365日、約1,400万人の都民に安全でおいしい高品質な水を安定供給しています。さらに、将来にわたる安全で高品質な水道水の安定供給に向け、施設の耐震化や更新を推進するなど、強靱で持続可能な水道システムの構築に取り組んでいます。

都営住宅



豊かな住生活を実現・維持させるまちづくり

都営住宅は都内に約26万戸あり、住宅に困窮する方などの生活を支えています。住宅政策本部では、良質な住宅ストックと良好な住環境の形成促進に向けて建替え等を行っています。不燃化や耐震化で防災性を高めるとともに、新たに創出した用地を活用したまちづくりに取り組んでいます。

鉄道



首都東京を結ぶ、公共交通の要

交通局が運営する都営地下鉄、都営バス、都電、日暮里・舎人ライナーなどは、1日あたり約323万人が利用する東京の重要な公共交通機関です。安全・安心を最優先に高品質なサービスを提供するとともに、地域社会との連携による活性化にも貢献しています。

水門



高潮や津波を防ぐ、守りの門

港湾局では、海岸保全施設を整備し、高潮や津波による浸水被害防止に取り組んでいます。防災拠点である高潮対策センターでは、24時間365日体制で潮位を監視し、光ファイバー通信網で結ばれた水門を遠隔で操作しています。また、水門の操作には、AIによる水位変動の予測値も活用して、非常時における操作を的確なものとしています。

橋梁



歴史と価値を、未来に橋渡し

建設局では、約1,200もの橋梁を管理。その中には勝間橋や永代橋、清洲橋といった重要文化財も含まれます。歴史的価値を次世代へつなぐため、予防型保全管理を導入して橋梁の長寿命化を推進。さらに、ライトアップなどを活用し、景観向上を通じたまちづくりも進めています。

水素エネルギー



持続可能な未来を拓く、次世代エネルギー

東京都はエネルギーの脱炭素化を進め、「未来を拓くグリーンでレジリエントな世界都市・東京」を目指しています。水素エネルギーの普及に向け、燃料電池自動車や水素ステーション整備の支援を行うとともに、官民一体での取組を展開しています。

WORK AND SCALE

東京都の5つの技術職

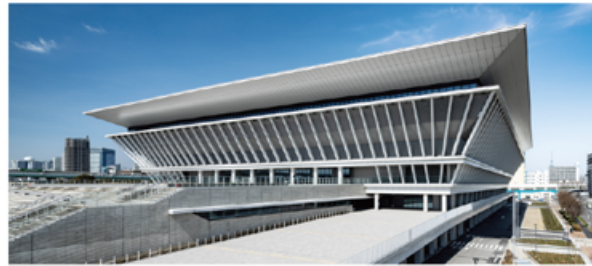
東京都の技術職には、土木・建築・機械・電気・ICTの5つの職種があります。
それぞれが現場の事務所や本庁での勤務を通じて経験を積み、技術職としてのキャリアを築いています。



道路・河川・港湾・上下水道の整備及び管理、市街地再開発や土地区画整理事業の実施、都市計画決定など、都市基盤に直結する幅広い業務を担います。

主な配属先

本庁（建設局、都市整備局、港湾局、水道局、下水道局など）、建設事務所、市街地整備事務所など



都市づくりや住宅政策などの企画、公共住宅建設の計画及び設計監督、さらには建築物の確認及び許可業務等多岐にわたる業務に携わります。

主な配属先

本庁（都市整備局・住宅政策本部・財務局など）、建築指導事務所など



上下水道施設や都営地下鉄の機械設備の維持管理、道路や河川、公園緑地での機械設備建設、環境保全対策における規制や指導などを担当します。

主な配属先

本庁（交通局・水道局・下水道局など）、車両検修場、浄水場、水運用センター、水再生センターなど



上下水道施設や都営地下鉄、港湾、空港などの電気設備維持管理や、道路、河川、公園緑地などの電気設備建設、さらに都庁LANの運営管理など多様な電気関連業務に携わります。

主な配属先

本庁（交通局・水道局・下水道局など）、地下鉄電気管理所、浄水場、水運用センター、水再生センターなど



各局事業におけるデジタル活用コンサルティングや解決策の企画・提案、業務システムの企画及び運用などを行い、都市のデジタル化を推進します。

主な配属先

本庁（デジタルサービス局、各局システム所管部署など）など

「スマート東京」の実現に向けた取組方針

TOKYO Data Highway 「電波の道」で「つながる東京」

いつでも、誰でも、どこでも、なんでも、
何があってもインターネットが
つながる環境を整備

街のDX

公共施設や都民サービスのデジタルシフト

様々な政策やインフラに、
デジタルを活用した最先端技術を取り入れ、
サービスの質そのものを高めるとともに、
都民のQOLを向上

行政のDX

行政のデジタルシフト

都庁自身をデジタルガバメントへと
変貌させ、行政のQOSを爆上げすることで、
都民の幸せを実現

東京都を支えるチカラ

東京都の一般行政職員約4万1,000人のうち、土木・建築・機械・電気の職員は約8,000人。

道路や橋梁、河川、鉄道など多様な事業領域で、計画から設計、施工、管理・運営まで、すべての工程に携わります。

東京都の技術職は、未来の東京を形づくり、次世代に引き継ぐ重要な仕事です。

出典:東京都人事委員会「都職員の構成(令和6年4月1日現在)」

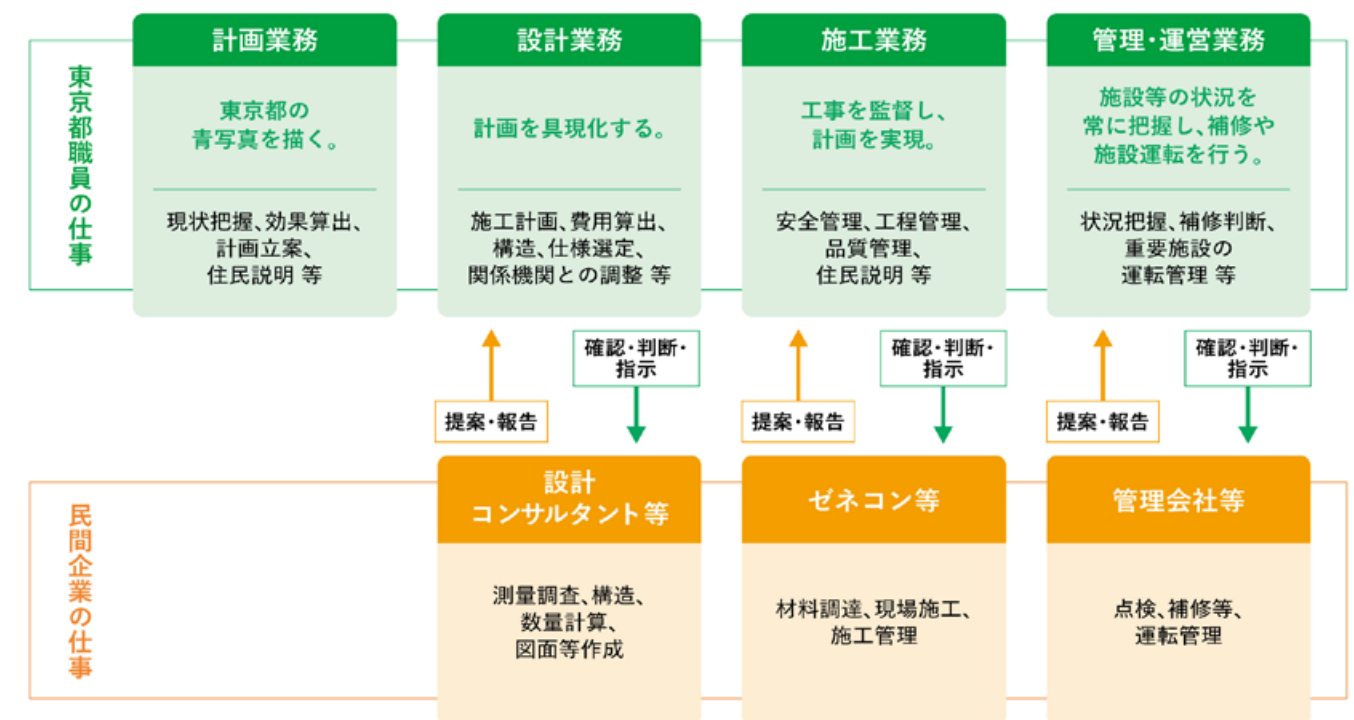
(例)公共事業の流れ



民間企業との違いは？



東京都は、民間企業だけでは実現が難しい道路建設や上下水道整備、公共施設建設といった社会インフラの整備を、
ときに民間事業者と連携しながら行います。都市の未来像を示し、社会全体を牽引する役割を果たすことが東京都の使命です。



PROJECT TEAM INTERVIEW

環状七号線
地下広域調節池事業

地下を走るトンネルは
未来の東京につながっている。

新宿区・中野区・杉並区の道路と河川の整備を担当する第三建設事務所の職員たち。工事第二課の彼らに託されたのは、全長13.1km、貯留量143万m³にも及ぶ巨大な地下貯水トンネル「環状七号線地下広域調節池」の建造でした。プロジェクトに携わった6人の職員たちの会話から、事業の背景や使命、そして壁を越えた先に見えた新たな東京の姿について紐解いていきます。

地図の下で、二つの調節池をつなぐ

大友：今回のプロジェクトが始まった背景には、都市部で頻発している集中豪雨への対応がありました。私たちが管轄している新宿区、中野区、杉並区では、これまでに床上浸水や地下施設の冠水といった被害が報告されており、その対策が急務とされていました。

篠田：特にここ数年、短時間で激しい雨が降るケースが増えていますね。プロジェクトが始まる以前に、神田川流域の整備水準となる降水量が1時間あたり50ミリメートルから75ミリメートルに引き上げられました。その水準変更を受けて神田川流域の整備計画が改定され、それにもとづいた工事の設計や発注が進められています。

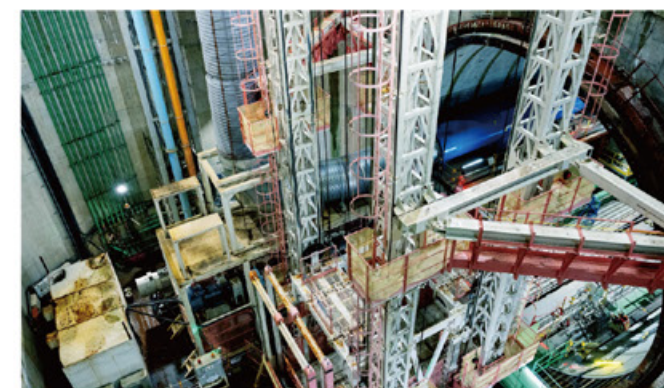
石田：環状七号線地下広域調節池は、地下深くに整備されるトンネル式の巨大な施設で、全長13.1km、貯留量は143万m³にもなります。この水量は東京ドームの天井まで水を溜めるよりもさらに大きな規模です。



荒井：この広域調節池は、北側で白子川と石神井川の二つの河川の水を一時的に貯留する「白子川地下調節池」と、南側で神田川、善福寺川、妙正寺川から水を取り込む「神田川・環状七号線地下調節池」とを結びつける設計になっています。調節池容量を流域間で相互融通することにより、局地的大雨にも対応する機能を備え、大規模な容量と近年の降雨特性の両方に対応できる仕様です。私は、入都1年目からこれほど大きな事業に関わるとは思っていなかったの、最初はプレッシャーを感じました。一方で、大学時代から水害対策事業に携わりたいという想いがあったため、念願が叶って担当できることに喜びも感じています。

柴田：私は前年まで民間で働いており、入都後にこのプロジェクトの存在を知りました。道路下に長大な調節池を建設するという発想に驚きました。東京都職員だからこそ携われる、未来の都市インフラを支える大事業だと感じています。

大門：私も、以前は都立学校の建築に関する設計・工事を担当していて調節池事業を知らなかったの、普段の生活では見えない地下空間で進む大事業の存在に驚きました。このプロジェクトは、洪水対策を目的としていますが、将来の都市基盤の強靱化を見据えたものです。都民の皆さまの安全と安心を支えるという大きな責任を感じます。



一本のトンネルと、いくつもの職種

大友：プロジェクトの成功には各専門分野の密接な連携が不可欠ですが、私たちのチームは土木、建築、機械、電気といった多様な職種で構成されており、それぞれの異なる視点から解決策を模索していると感じますね。

石田：私は機械職として、調節池内のポンプ設備、換気設備及び洗浄設備の設計・施工管理などを担当していますが、大友課長が言うように、他の職種との連携が欠かせません。たとえば、機械を据え付ける土台については土木職の荒井さん、機械を稼働させる電力については電気職の柴田さんと意見交換を重ねています。また、管理棟内の設備配置について建築職の大門さんと調整を行うなど、常に対話が欠かせない作業です。

柴田：たしかに、そうした連携は今回のプロジェクトにおいて必須です。私は電気設備の担当として、工事用の仮設電源の配置や配線経路について荒井さんと話し合いながら設計を進めています。また、受変電設備や管理棟内の電気室の設計を行っていますが、機械・建築設備に必要な電気を送電するため、石田さん、大門さんとも密に連携しています。そして、皆さんと雑談も交えてフランクに話し合える関係を築けていることが、スムーズな連携を可能にしていると感じます。

大門：本当に、会話しやすい雰囲気だと思いますね。建築職である私の主な役割は、トンネル工事後にそれらを維持管理する管理棟の設計及び監督です。当初、事業の中心は土木で建築はあまり関わりがないと思っていましたが、プロジェクトの理解が進むほど、維持管理に必要な管理棟の重要性を感じ、建築の視点が欠かせないと実感しています。現在は、トンネル工事と並行して設計作業を進めているところで、皆さんとの意見交換を通じて実現可能かつ、将来的に維持管理がしやすい施設になるよう検討しています。

荒井：土木職は、トンネル本体や立坑、取水施設の土木躯体の設計が主な業務です。取水施設ひとつを取っても、建築・機械・電気の仕様によって土木施設の形状が変わるため、他職種と密接に連携しながら進める必要があり、皆さんとの話し合いの中で最適解を見つけるように努めています。



土木 **大友 俊** 課長

建設局
第三建設事務所
工事第二課



建築 **大門 諒亮** 主任

建設局
第三建設事務所 工事第二課
広域調節池・善福寺川上流
調節池整備担当



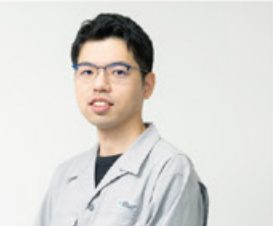
機械 **石田 磨仁** 主任

建設局
第三建設事務所 工事第二課
広域調節池・善福寺川上流
調節池整備担当



電気 **柴田 直樹** 主任

建設局
第三建設事務所 工事第二課
広域調節池・善福寺川上流
調節池整備担当



土木 **荒井 創汰** 主事

建設局
第三建設事務所 工事第二課
広域調節池・善福寺川上流
調節池整備担当



土木 **篠田 怜子** 主事

建設局
第三建設事務所 工事第二課
広域調節池工事担当

篠田: 皆さん、幾度も話し合いを重ねながら、設計を進めていますよね。私は現場の工事をサポートしつつ、設計通り工事が進んでいるかを監督することが主な役割です。また、現場に直接足を運ぶことで、設計段階では見えなかった課題や改善点を共有し、必要があれば再度設計担当に確認することも私の役目です。

大友: 「トンネルを造る」という一見シンプルな事業の中に、これだけの要素が絡み合っています。だからこそ、職種の垣根を越えた連携がプロジェクトの成功を決める鍵になるはずですよ。



壁にぶつかっても、先に進むために

大友: このプロジェクトは大規模だけでなく、地下という特殊環境での施工が中心となり数多くの技術的な壁があります。皆さんは、どのようなところに課題を感じていますか？

石田: 私は他職種との連携に難しさを感じました。たとえば、調節池内に設置するポンプ設備や換気設備は非常に大きなサイズのものが 필요합니다。それらの土台は土木施設として先に整備されているのですが、機器の維持管理や更新を見越してあらかじめスペースをもう少し大きく確保しておけばよかったと感じることもありました。

柴田: 私は入都したばかりということもあり、特に行政的なルールや規則の理解に苦労しましたね。しかし、皆さんが丁寧に一から教えてくださるので、徐々に積極的に質問や意見を言うことができるようになり、自分の不明点を少しずつクリアしていけたと思っています。



大門: 私も、これほど大規模なプロジェクトに携わった経験がなかったので、当初はかなり苦労しました。建築の分野は、計画・構造・施工・法規・環境設備など多岐にわたります。本事業についての知識や経験が少ない中で、それらの視点でスピード感を持って業務を進めていくのは骨が折れる作業でしたが、自主的に勉強したり、建築職の先輩や上司にも相談したりしながら、なんとか乗り越えることができました。

荒井: 土木職としては、住宅街の狭い土地の中でどのように施工を進めるかが大きな課題でした。そして、工事施工についての知識が十分でなかったため、先輩職員に確認するとともに、民間の施工業者の方々にもヒアリングを行い、クレーンの配置が可能かどうかといった課題を確認しながら進めていきました。

篠田: 私の場合、既に施工が進んでいる段階でプロジェクトに参加したことが大きなハードルでしたね。トンネル施工やこれまでの経緯に関する知識が不足している中で、現場の方々と話を進めなければならず、そこに難しさを感じました。しかし、皆さんに質問をしたり、現場作業を積極的に見に行くなど、「現場で時間を過ごすこと」で段々と自分の理解を深めていけたと思います。また、トンネルの掘削が周囲に及ぼす影響について、地元住民の方々に説明をするのが大変でしたね。掘削やそれに付随する作業が地上にどのような影響を及ぼすかを説明し、理解を得ることが難しかったです。まさに現在進行形でその課題に取り組みながら、工事をどう進めるかを考え続けています。

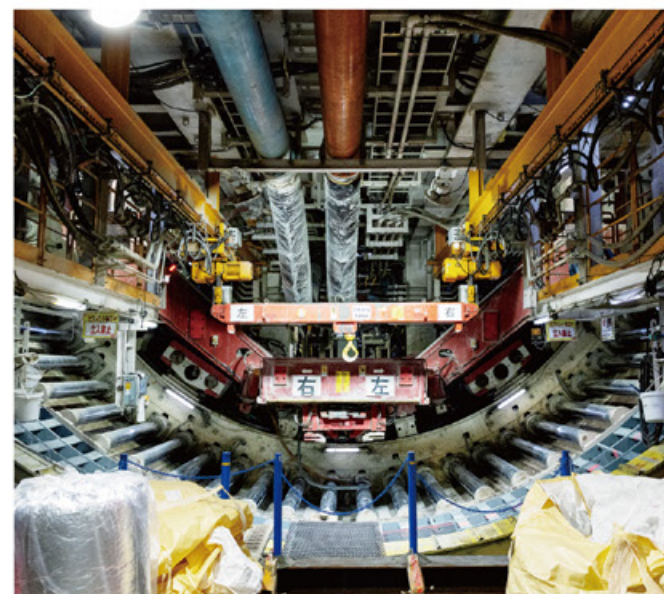


トンネルの先に、100年後の東京がある

大友: このプロジェクトを通して、皆さんはどんな成長や発見を得られましたか？

荒井: 近隣住民の方への工事説明会において、騒音や振動など住環境への影響についての様々な質問に対して真摯に回答したことで、住民の方に工事内容について納得していただいた際に成長を感じました。

柴田: 私は、住民の方に向けた調節池の見学イベントで、子供たちが喜んでくれる姿や、住民の方々が期待を寄せてくれる意見をいただけたことが大きな励みになりました。他方、巨大かつ長期間運用する設備であるため、その維持管理も将来的には課題になることを知りました。今後は、調節池の長期的な管理方法にも目を向けて、他職種と連携して維持管理のしやすい設備設計に心がけていきたいと思っています。



大門: 私が成長を感じるのは、職種間だけでなく、他の部署とも連携しながら設計を進めていることです。広域調節池の整備は、私たち第三建設事務所が担当していますが、トンネルが中野区から練馬区にまたがるため、練馬区を管轄している第四建設事務所との調整も発生します。私たちが設計した管理棟を、第四建設事務所の皆さんが維持管理することも考慮して、リーダーシップを発揮しながらお互いに議論を重ねることに、苦慮する場面もありつつやりがいを感じています。

石田: 私にとって今回のプロジェクトは、機械職としての知識を大きく深める貴重な機会になっています。普段ではなかなか携わることのない大きな規模や特殊性能を扱う中で、これまでの知識を応用しつつ、プロフェッショナルな皆さんとの連携を通じて、多くの力を身につけたと思います。

篠田: 私も石田さんと同じく、自身にとって大きな学びの機会になっています。特に、着任してすぐに契約変更手続きと住民説明会が重なり、

多岐にわたる知識と現場理解が求められました。大きな山場でしたが、皆さんの協力のおかげで今後も活かせる知識が得られました。これからは現場で働く方々の気持ちをさらに汲み取り、信頼関係を築きながら工事を進めていきたいです。

大友: 今回の事業は、世界的に見ても非常に珍しいものです。国内外のメディアからも注目を集め、東京をアピールするきっかけにもなっています。実は10年前、私はこの調節池の計画を担当していました。そして今、責任者としてその計画を実行できていることに感慨を覚えています。この事業の次なる段階として、東京湾まで地下トンネルをつなげる「地下河川」プロジェクトが進行中です。土木、建築、機械、電気の四大技術を連携させて、100年先の明るい未来の東京の礎を築いていきたいですね。



MESSAGE.1

土木

理系の思考を活かして、
都民の生活に向き合う。

御代川 裕紀

港湾局 港湾整備部 建設調整課
平成29年度入都

※職員の所属等は令和6年10月時点の情報です。

落ち着いて、公務に向き合える環境

大学では土木学科に所属し、水理学や構造力学等の基礎知識を学ぶとともに、特に橋梁の維持管理について研究を行っていました。大学での学びを活かせる場所を探してインターンに参加する中で、ゼネコンやコンサルなどの業界と比較し、自分に最も合っていると感じたのが東京都です。公務に関わる重要な仕事だからこそ、落ち着いて業務に取り組む姿勢に惹かれ、また「ライフ・ワーク・バランス」という考え方に初めて触れたことも印象的でした。さらに土木に携わる上で、一部の分野に特化しがちな民間企業とは異なり、広範な領域に関わることができるのは、東京都ならではの魅力だと感じました。

理系の思考で、4,000万人を支える

現在、建設調整課に所属し、港湾局が進める海岸保全施設に関する調整業務を担当しています。具体的には、施設工事の計画・設計・契約手続きに関わる部署と連携し、予算やスケジュール内で事業を円滑に進めるための調整が私の主な業務です。こうした業務には細かなルールが多いため、当初はその理解に苦労しましたが、相談しやすい職場環境のおかげで着実に学びながら取り組むことができています。以前は建設局で道路関連の設計業務を担当していましたが、現在は60kmに及ぶ大規模な防潮堤の整備など、首都圏4,000万人の生活と産業を支えるスケールの大きさを実感できる業務に携わっています。そして、大学時代に培った理系的な思考が事業理解や内部調整での説明の際に役立っており、そこにも大きなやりがいを感じています。



MESSAGE.2

建築

揺るぎない未来を、
人のそばでつくりたい。

星澤 府美子

都市整備局 都市づくり政策部 広域調整課
平成27年度入都

※職員の所属等は令和6年10月時点の情報です。

都市を面で支える、都の仕事

私は幼いころに阪神淡路大震災を経験したこともあり、大学院に進学し、地震工学の研究を行っていました。建物の振動を吸収する技術の実験を繰り返す中で、建物単体の耐震技術の重要性を実感しました。しかし、面的に被害を抑えるためには、建物単体の技術だけでなく、都市全体を考えた地震対策が必要だと感じるようになったのです。そこで、広い視点で防災都市づくりに貢献したいと思い、東京都を志望しました。東京都では、人や建物が最も多く集まる首都だからこそ見える課題に全国に先駆けて取り組むことで、その成果を他の自治体にも広く発信できると考えたことも大きな理由です。

目指すべき東京の未来をつくる

私は都市整備局の広域調整課で、目指すべき東京の都市の姿を描いた「都市づくりのグランドデザイン」の実現に向け、都市づくりの方策等を検討しており、特に、「都市開発諸制度」の運用を担当しています。この制度は、子育てしやすい住宅の整備や市街地環境の改善など、公共性の高い建築計画に容積率の緩和等を適用することで良好な都市開発を誘導する制度です。新たな上位計画策定や条例制定があった場合は、他部署と調整しながら運用の見直しを行っています。こうした業務を通じて、未来の東京を形づくり、多分野にわたる社会課題に取り組めることにやりがいを感じています。



入都時

建設局の第二建設事務所で、道路工事等に関する監督業務を担当。新しい環境に慣れるのは大変でしたが、マニュアルや基準などを確認しながら、先輩や上司の支えで乗り越えました。

1年目

同事務所で、工事の監督や都民の方への説明業務に携っていました。都民の方から直接感謝の言葉をいただいたことで、大きなやりがいを感じました。

3年目

同事務所で、上流工程の設計業務を担うように。それまでの現場で「こうしたほうがよくなる」と考えていたことを、設計の場で反映できる面白さがありました。

現在～これから

港湾局に異動となり、本庁で海岸保全施設の調整業務を担当。今後は調整業務だけでなく、港湾工事の監督など未経験のフィールドに挑戦できればと思っています。そして、家庭との両立も大切にしていきたいです。

入都時

都市整備局の第二市街地整備事務所で、延焼遮断帯を形成する都市計画道路の整備推進を担当。手続きや行政特有の業務フローについて、自分の課だけでなく関連する部署の先輩職員からも教えてもらいながら、一歩ずつ学んでいきました。

1年目

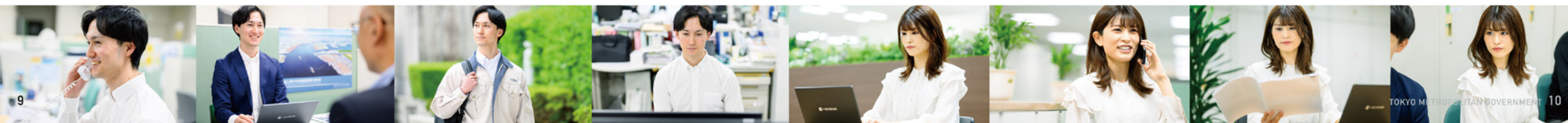
同事務所で、用地取得に携わっていました。段々と業務の全体像を見渡せるようになり、短期的及び長期的な目標を立てられるように。関係部署とも情報共有をしながら計画的に業務に取り組みました。

4年目

住宅政策本部のマンション課(本庁)に配属され、分譲マンションの改修や建替えに向けた合意形成を円滑に進めるためのガイドブックの作成や、マンションの適正な管理の促進に関する条例の制定に向けた検討を行っていました。

現在～これから

本庁にて、都市開発諸制度の運用業務を担っています。これまでの経験を活かしながら、相手の考えを汲み取れる対話力を磨いていきたいです。そして、後輩たちのロールモデルとなる先輩になれたらと思います。





MESSAGE.3

機械

目に見える形で

東京の日々を守る。

寺尾 千鶴

交通局 車両電気部 志村車両検修場
(舎人車両検修所)
令和4年度入都

※職員の所属等は令和6年10月時点の情報の情報です。



「目に見える形」のやりがいを求めて

子供の頃、公務員として働く父の姿を見て、その職業に自然と憧れを抱いていました。特に、家では物静かだった父が仕事の間では社交的な姿を見せるギャップに、仕事への向き合い方を感じたことが印象的でした。そして大学では機械工学を学び、金属材料の疲労強度を研究していましたが、学んだことを活かしながら、自分の手がけたことが実感できる規模の仕事をしたと考えて東京都を志望しました。数ある部署の中から交通局を選んだのも、自分が普段の生活でも利用している電車に携わることで、「目に見える形」で社会に役立つ仕事ができると考えたからです。そうした携わり方が、仕事のやりがいや喜びにもつながると思いました。

変わらない日々を守り続ける

現在は舎人車両検修所に所属し、庁舎設備の管理やメンテナンス業務を担当しています。特に、車両を持ち上げる大型クレーンの法定点検や整備の計画作成、外部業者との調整が主な業務です。この他、庁舎内で発生する設備の故障対応や、所属する職員の教育訓練に関する業務も担当しています。庁舎内の設備は多岐にわたるため、電気部門や施設部門の方々とも調整しながら、建物の維持にあたるのが欠かせません。初めは幅広い業務内容に戸惑うこともありましたが、周りの先輩方が丁寧に教えてくださるおかげで、少しずつ自信を持てるようになりました。私が一番やりがいを感ずるのは、自分が整備や管理に携わった設備が、日暮里・舎人ライナーの安全運行を支えていると実感できた瞬間です。通勤中などに運行している車両を見ると、「変わらない運行を守る」という意識を持って携わっている日々の業務の大切さを改めて実感します。

入都時

交通局に配属され、本庁にて所属部署の職員の教育訓練業務を担当。入都直後は専門知識がないことに不安がありましたが、先輩方から優しく指導してもらい、現場調査にも出かけて知識を習得していきました。

1年目

本庁にて所属部署の職員の教育訓練の計画や研修資料作成に携わるように。周囲の方にも助けてもらいながら、仕事を進めることができました。

3年目

現在の舎人車両検修所に配属となり、庁舎管理業務を担当。他部署の方とも関わりながら多様な業務を経験する中で、視野の広がりと仕事の面白みを感じることができました。

現在～これから

現在は、舎人車両検修所で主に庁舎設備の管理業務を担当しています。今後は、幅広い知識と経験を積みながら、ライフステージとキャリアを両立させつつ、自分らしい働き方を模索していきたいです。



MESSAGE.4

電気

自然と人の環境を、

技術の力で守り変えていく。

山本 竜也

下水道局 施設管理部 施設管理課
平成26年度入都

※職員の所属等は令和6年10月時点の情報の情報です。

きれいな東京は、人の手でつくられた

私は生まれも育ちも東京で、隅田川の近くで過ごしてきました。幼い頃から、隅田川はきれいな川として親しんでいましたが、両親から「昔は汚れていた」という話を聞き、その水質改善が下水道技術によるものだを知ったことで環境分野に興味を持つようになりました。そして中学生の頃から、温室効果ガスの削減やエコといった話題が身近になり、自分も「何かよいことをしたい」という想いを抱いて理系の進路を選択。大学では電気工学を専攻し、メタンガスや太陽熱から発電するエンジンの研究を行っていました。民間企業ではなく、東京都の職員という道を選んだのは、「世界に誇るクリーンな都市環境を創出する」という都が掲げる目標に共感し、また、幅広い業務に携われることに魅力を感じたからです。

下水道施設を守り、都民の暮らしを支える

現在は、下水道局の施設管理部門に所属しています。私の部署では、東京23区にある合計100近くにも及ぶ水再生センターやポンプ所、汚泥処理施設の統括的な管理を担当しています。豪雨や地震などの災害が起きた際、施設被害などの情報収集を迅速に行い、関係各所と調整・協力しながら、下水道施設の安定した運営を確実にすることが私たちの主な仕事です。小さなトラブルも日々ありますが、皆が一丸となって対応に当たること、都民の方々の安全を守り、安心して快適な生活を支えています。また生成AIなどを活用しながら、情報集約ツールのブラッシュアップを行うことで業務効率化を図りました。職員の方々から好評をいただいたときには大きなやりがいを感ずりました。



入都時

下水道局の砂町水再生センターに配属され、先輩に教わりながらポンプや送風機などの運転管理業務を担当。自分の仕事で地域を守ることに繋がっているという使命感和やりがいを感ずりました。

3年目

本庁勤務となり、下水道事業に関わる大規模プロジェクトの調整や経営計画の進行管理業務を行っていました。この時期のおかげで、下水道局全体を見渡す視点を養えたと思います。

8年目

局間異動により、東京2020オリンピック・パラリンピックに関する部署へ。競技会場の空調や仮設観客席などの整備業務に携わり、新たな視点と価値観が生まれました。

現在～これから

再び下水道局に戻り、本庁で水再生センターなどの統括的管理を担当しています。今後は、都民の方と職員とがWin-Winになれるような業務・事業のあり方を追求していきたいです。



MESSAGE.5

ICT

現場と技術の二つの目線で、
ICTの最適解を見つける。

多田 有希

主税局 資産税部 固定資産税課
令和3年度入都

※職員の所属等は令和6年10月時点の情報の情報です。

ICTに舵を切った、東京の未来に惹かれて

私は大学で情報システム工学を学び、ネットワークやプログラミング、機械学習など幅広い分野に触れていました。サークルでもソフトウェア開発を行う中で、特に興味を持ったのがICTを活用した社会貢献です。就職活動中に東京都がICT職を新設したことを知り、行政がICTに力を入れることで社会に広く貢献できる点に惹かれました。これまで学んでいた専門的な知識を活かせることも魅力でしたが、入都の決め手となったのは、公共性の高い取組を直接支える立場で働けることです。民間企業とは異なり、行政だからこそ、様々な事業の根幹に関わる経験ができると考え、東京都を志望しました。

現場とシステム、二つの目線を持つ

私は固定資産税を扱う部署で、「税務総合支援システム(TACSS)」の運用を担当しています。具体的には、固定資産税の納税周期に合わせたスケジュールの設定や、法律の改正に基づく仕様変更の調整などを行っています。また、都税事務所への操作指導やマニュアル作成、運用の効率化も私の仕事です。都のICT職の仕事の醍醐味は、現場の理解とシステムの理解の両方を求められることにあります。行政現場の作業を把握しつつ、それをシステムの設計要件として組み込んでいくことに面白みがあるのです。特に最近では、知事部局のパソコン・情報基盤システムである「TAIMS」の更改対応、そして次期税務基幹システムの開発にも携わっており、税務の全体像の把握に努めながら、技術屋としての目線で取り組むことを意識しています。

入都時

デジタルサービス局に配属され、本庁にて庁内の業務ネットワーク基盤の運用を担当。仕事に慣れるために、行政の仕組みを学んでいく期間となりました。

1年目

引き続き、本庁にて庁内の業務ネットワーク基盤に関するLAN設備の整備、新システムの接続対応を行っていました。初めての業務ばかりで大変でしたが、調べものをしながら仕事の基礎を身につけました。

3年目

局間異動により主税局に異動となり、現場に近い固定資産税課で、税務システムの不動産取得税に係る部分の運用や次期システムの開発を担当。実際の現場を経験した方々から学んだり、システムの根幹に関わる部署では見えない発見が生まれました。

現在～これから

現在は、本庁で税務システムの固定資産税に係る部分の運用に携わっています。システムの基幹部門と、現場寄りの部門を経験したことで見えてきた視点を意識しながら、ICTの知識を底上げし、システムの内製化にも参画していきたいです。

READ MORE

技術職を詳しく知りたい方へ

土木・建築・機械・電気職はこちら



土木・建築・機械・電気職向けの
コンテンツを掲載



詳細はこちら



ICT職はこちら



ICT職向けのコンテンツを掲載



詳細はこちら

